

令和4年度
保険者とかかりつけ医等との協働による
加入者の予防健康づくり事業
(社会的処方モデル事業)

兵庫県保険者協議会
(養父市)

兵庫県保険者協議会としての取組

協議会構成団体(委員)

【各保険者等代表10名】

兵庫県福祉部国保医療課
兵庫県保健医療部健康増進課
全国健康保険協会兵庫支部
神戸製鋼所健康保険組合(健康保険組合代表)
丹波篠山市保健福祉部(市町保険者代表)
兵庫県医師国民健康保険組合(国民健康保険組合代表)
地方職員共済組合兵庫県支部
兵庫県後期高齢者医療広域連合
健康保険組合連合会兵庫連合会
兵庫県国民健康保険団体連合会

【各医療関係団体代表5名】

一般社団法人兵庫県医師会
一般社団法人兵庫県歯科医師会
一般社団法人兵庫県薬剤師会
公益社団法人兵庫県看護協会
公益社団法人兵庫県栄養士会

実務レベルでの検討を行う専門部会も設置
協議会構成団体が推薦する委員25名

本事業への取組

- 令和4年2月 ・養父市から本事業実施の提案
令和4年3月 ・令和4年度保険者協議会事業計画に
位置づけ、実施することを決定
・保険者協議会として厚生労働省公募
事業に応募
令和4年4月 ・採択内定通知
令和4年6月 ・養父市への委託事業として事業着手
令和4年8月 ・第1回保険者協議会専門部会におい
て進捗状況報告
令和4年11月 ・第1回保険者協議会(親会)において
進捗状況報告
令和5年1月 ・保険者協議会講演会・事例発表会に
おいて養父市から中間報告
令和5年2月～ ・保険者協議会HPに報告内容を掲載
予定



かかりつけ医と連携し、医療を起点に健康面
だけでなく、社会生活面の課題解決につな
げる仕組づくりの好事例として、保険者及び
医療関係団体と共有し、横展開を図っていく

共同事務局

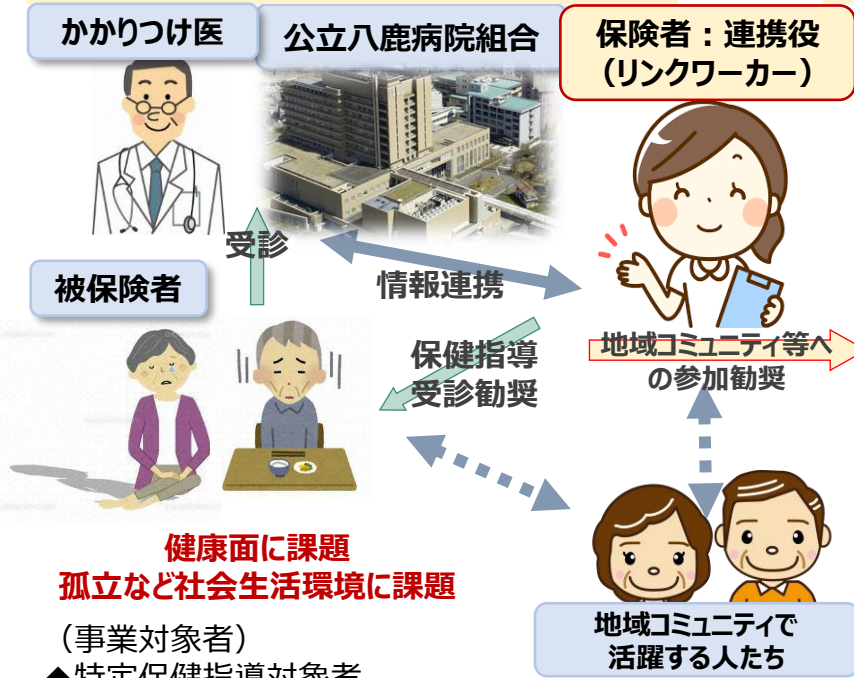
兵庫県福祉部国保医療課
兵庫県国民健康保険団体連合会

～農業と芸術文化を含めた社会とのつながりによる健康加齢実現に向けた仕組みづくり～

◆目的 孤立などに起因する疾病の重症化が懸念される被保険者について、かかりつけ医と連携して重症化を予防するとともに、孤立を解消するために地域コミュニティや社会資源に繋げる取組を行い、被保険者の健康面だけでなく社会生活面の課題解決につなげる仕組みを構築する。

- ◆内容
- ①医療機関とリンクワーカーの連携による疾病の重症化予防の取組と社会生活面のリスクへの相談支援の仕組みづくり
 - ②リンクワーク機能充実のための人材育成及び社会的処方プログラムの作成
 - ③地域コミュニティ等の見える化と共有及び地域特有の社会資源（農業・芸術文化）との連携
 - ④実態・ニーズ把握と地域特性の分析

① 保健指導と相談支援の仕組みづくり



健康面に課題
孤立など社会生活環境に課題

- (事業対象者)
- ◆特定保健指導対象者
生活習慣病の治療が必要
 - ◆糖尿病重症化予防保健指導対象者
 - ◆健康状態不明者
65～74歳の単身世帯の医療・健診未受診者

② リンクワーク機能充実のための研修 (人材育成)

- <連携役 1層>
- ・保健・地域包括担当保健師、生活相談支援員、認知症支援推進員
 - ・公立八鹿病院医療ソーシャルワーカー、看護師
 - ・薬剤師
 - ・高齢者相談支援センター支援員
 - ・社会福祉施設の介護支援専門員 など
- <連携役 2層>
- ・民生委員、ふれあい訪問員など

養父市版社会的処方プログラムの作成

情報交換



参加勧奨



地域コミュニティ & 特有の社会資源



③ つなぎ先の見える化と共有
通いの場として農業・芸術文化の活用

④ 地域における健康面及び社会生活面に関する実態・ニーズ把握と分析

医療機関とリンクワーカーの連携 相談支援依頼（社会とのつながり処方箋）とフィードバック

【医療機関からの紹介件数】

8件（5医療機関）

50歳代 1件（男性）

60歳代 2件（男性）

80歳代 5件（男性2、女性3）



【その他】

処方箋の使用には至らなかったが医療機関から相談があった件数

3件（2医療機関）

・本人家族の同意が得られなかった3件

相談支援依頼シート 支援状況連絡シート

【紹介事例】

- Ⓐ生活にメリハリもなく、近所トラブル、飲酒等あり。今後が心配。
- Ⓑ昼間独居、熱中症で何回も受診。
- Ⓒ認知機能、気持ちの落ち込みにより、身体活動が低下。
- Ⓓ独居、生活実態不明。仕事は何をしていたか不明。
- Ⓔコミュニケーションがとりづらく、家での生活状況がわからない。
- Ⓕ高齢世帯で、ひきこもりの家族がおり悩んでいる。
- Ⓖ減量、服薬遵守できない（複数の医療機関から多数処方あり）。
- Ⓗ高齢独居で、気分の落ち込み、今後の不安が強い。



～まずは傾聴・情報収集～

- 生活状況について
- 楽しみや趣味について一緒に考える
- 困りごとについて
- 地域とのつながり
- その人のいいところ探し

⇒必要に応じて制度・サービス、
社会資源を紹介するなどの継続支援

- 介護保険申請2件
- 楽しみ、居場所の調整
- 仕事（シルバーの調整）
- 家族との調整

リンクワーカーへ相談支援を依頼した医師のコメント

◆仕組みに関するコメント

- 医療だけではどうにもできない生活面に課題を持つ患者をつなげる（相談する）窓口・手段ができて大変ありがたい。
- 病気以外の社会的ケアを担ってくれる機能と連携できる仕組みは助かる。
- 制度の狭間をサポートできる仕組みであり有意義な取組。
- 医療含めていろんな支援があることを患者が知ることが安心につながる。
- リンクワーカー（連携役）となる保健師の負担が増えることが気がかり。
- 取組の継続・発展を期待。



◆個別事例に関するコメント

- 不明であった患者の生活環境の情報が得られ、医療側の不安解消につながった。
- 不定期の困った受診（2週間に3・4回）や、体調不良を理由とした相談電話が解消し、スタッフの負担が軽減。
- 重複多剤など本人の歪んだ考え方を変えることを期待して紹介したが、考え方は変わらなかったものの、薬局一本化につながり、服薬管理の不安が減少。
- 重度の疾病を抱えるひきこもり事案が医療・介護につながり、今は本人が受診できる状況になっていることはこの事業の成果。
- 先行きへの不安が強かったことから紹介したが、他人には話せないことを吐露でき、本人も希望が持てたと喜んでいた。

◆依頼に至らなかった医師のコメント

- 予防的観点から50代のひきこもり気味の患者を紹介しようと考えたが、本人が承諾されなかった。本人に困りごとがないと依頼につながらない。
- 患者の悩みにつながっている家族案件を依頼しようと考えたが、家族が躊躇した。別件候補もあったが、市役所に入出入りしている立場上、承諾が得られなかった。

社会とのつながり処方箋 事例①

【基本情報】

- ◆64歳男性
- ◆独居（母親他界、父親施設入所、妹 施設入所）、親戚関係疎遠
- ◆無職（63歳まで仕事をしていたが退職後は自宅での生活）
- ◆既往歴 高血圧症
- ◆その他
 - ・父親が利用していた緊急通報システムを独居で不安があり利用中
 - ・移動手段：自転車・バス

お酒はやめられないな…
これだけが楽しみだから…

コミュニケーションとるのが苦手で
手先が不器用



インドア派で
外仕事は苦手
新しいことには
チャレンジしにくいなあ…



【医療機関からの紹介内容】

- ・父親と2人暮らしの生活であったが、父親が入院中（今後施設入所の予定）。
- ・生活にメリハリもなく、近所トラブル、飲酒等あり。今後が心配。
- ・生活環境について：自宅でノミが発生。



囲碁を一緒にできる
人があったらうれ
しいなあ
サイエンスなことも
してみたい…

できることを考え
てみようかなあ…
でも何ができるか
なあ…

【支援内容】訪問および電話対応

- ★本人の心配事について
父親の介護や今後については担当のケアマネと調整
- ★楽しみにについて
「囲碁が好き・サイエンスなことがしたい」との思いからやりたいこと探し
同世代の針金アートが得意な方とのマッチング
おおやアート村ビックラポのイベントへの参加勧奨（定期イベント・音楽会）
- ★日中の過ごし方について
シルバー人材センター・余暇活動の提案、支援団体のサロンに参加
- ★ノミ発生時の対応について
本人に消毒方法をレクチャーした結果「頑張っで自分でできそう」とのことで実施してもらいノミは消滅、発疹・掻痒感も軽減
- ★頻繁な緊急通報システムの利用
緊急通報の正しい利用方法についての確認（何が不安なのか、支援者、医師と内容の共有）

主治医：介入後、定期受診外の受診や不定愁訴等の電話が減った～



【今後の支援方針】

- 継続した伴走支援
役割、楽しみの発見・マッチングを継続
- ★楽しみにについて 囲碁と一緒にしてもらえる方を調整中
 - ★日中の過ごし方について 今後も継続して本人の思いを聞きながら考えていく
⇒シルバー人材センターと柔軟な就業を模索、地域のサロン、余暇活動等やってみたいこと探し
- 【支援協力者】
区長、民生委員、近隣の支援者、支援団体、社会福祉協議会



興味・楽しいから「つながり」づくりを模索

～針金アートを通じて～



社会福祉協議会でワークショップ化を検討中

針金アート仲間を増やしたい市民（保健師が把握）
とのマッチング＝ひとつのリンクワーク機能

リンクワーク機能の充実 リンクワーカー養成研修（連携役1層：ヘルスコネクター）

○**対象** 介護福祉事業所、公立八鹿病院、社会福祉福祉協議会、県立但馬長寿の郷、養父市役所などに勤務する医療介護福祉専門職（介護支援専門員、生活支援コーディネーター、医療ソーシャルワーカー、保健師、看護師、相談支援員など）

○**ねらい** 社会的処方による課題解決の基本的な考え方と技術を学び、地域包括ケアや地域共生社会の実現に向けて、現場での実践に活かす

○**目標**

- ・制度に縛られない考え方の浸透
- ・社会的処方に対する共通理解
- ・専門職同士の顔の見える関係づくり

◆インフォーマルな資源を使えるようになろう！
◆その人に合った支援って何だろう？
◆ソーシャルワークをレベルアップしよう！

○研修の内容

◇テーマを明確にし、3回シリーズで開催

- 1日目：「社会的処方とは」
- 2日目：「リンクワーカーの役割」
- 3日目：「地域コミュニティ・社会資源の活用」

◇社会的処方、ソーシャルワークに精通する講師陣による
講義&演習

近藤尚己氏

（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野主任教授）

長嶺由衣子氏

（国立大学法人東京医科歯科大学非常勤講師）

吉江悟氏

（一般社団法人Neighborhood Care 代表理事）

佐伯亮太氏

（播磨町まちづくりアドバイザー/合同会社Roof共同代表）

3回の研修に市内で
活躍する専門職が延べ126人、総勢71人が参加！

社会的処方の要

リンクワーカー養成研修

その人に合った支援って何だろう？

インフォーマルな資源を使えるようになろう！

ソーシャルワークをレベルアップしよう！

孤立など社会的リスクを背景に持ち、健康課題を抱える住民との相談支援を通して、健康面と社会生活面の課題解決に向け、必要な地域コミュニティや社会資源へつなぎ、住民自身が健康とウェルビーイングの改善につながるよう支援する「リンクワーカー」について学びます。

第1回 11/25(金) 13:30 ~ 16:30

場所 兵庫県立 但馬長寿の郷 第3,4研修室

「今、なぜ社会的処方が必要か」

講師 近藤 尚己氏 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻社会疫学分野主任教授

「実践例から学ぶ社会的処方」(オンライン)

講師 長嶺 由衣子氏 国立大学法人東京医科歯科大学非常勤講師
吉江 悟氏 一般社団法人Neighborhood Care 代表理事

第2回 12/16(金) 13:30 ~ 16:30

場所 兵庫県立 但馬長寿の郷 第3,4研修室

「地域でどんな支援ができるのか～リンクワーカーの役割と求められるもの」

講師 長嶺 由衣子氏 / 吉江 悟氏 / 近藤 尚己氏

第3回 1/20(金) 13:30 ~ 16:30

場所 兵庫県立 但馬長寿の郷 第3,4研修室

「養父市の地域コミュニティ・社会資源の見つけ方・つなぎ方」

講師 佐伯 亮太氏 播磨町まちづくりアドバイザー 合同会社Roof共同代表



研修1日目

◆日時：11月25日13:30～16:30 ◆場所：県立但馬長寿の郷第3・4研修室
◆テーマ：社会的処方とは ◆参加者：44人（アンケート回収40人）

◆主な内容

- ① 市役所からの趣旨・事業説明
- ② 講義「今、なぜ社会的処方が必要か」
講師 近藤尚己氏
- ③ 講義「地域における社会的処方の実践例」
講師 長嶺由衣子氏（オンライン）
適宜、グループワーク



研修2日目

◆日時：12月16日13:30～16:30 ◆場所：県立但馬長寿の郷第3・4研修室
◆テーマ：リンクワーカーの役割 ◆参加者：38人（アンケート回収34人）

◆主な内容

- ① 研修1日目のふり返り（グループワークまとめ資料）
- ② 講義「地域でどんな支援ができるのか
～リンクワーカーの役割と求められるもの」
講師 長嶺由衣子氏
- ③ 事例検討のロールプレイ
ファシリテーター 吉江悟氏
コメンテーター 近藤尚己氏、長嶺由衣子氏



研修3日目

◆日時：1月20日13:30～16:30 ◆県立但馬長寿の郷第3・4研修室
◆テーマ：地域コミュニティ・社会資源の活用 ◆参加者：44人（アンケート回収43人）

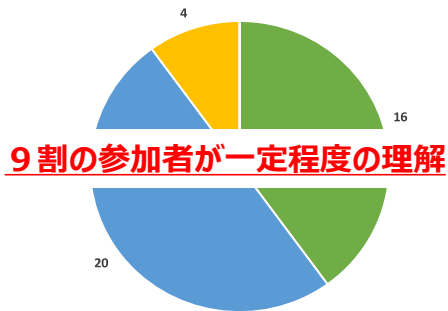
◆主な内容

- ① 講義・演習「養父市の地域コミュニティ・社会資源の見つけ方・つなぎ方」
講師・ファシリテーター 佐伯亮太氏
適宜、グループワーク
- ② まとめ
第1回～第3回のふり返り、グループワーク





「社会的処方」について理解できたと感じますか（1日目研修アンケートから）

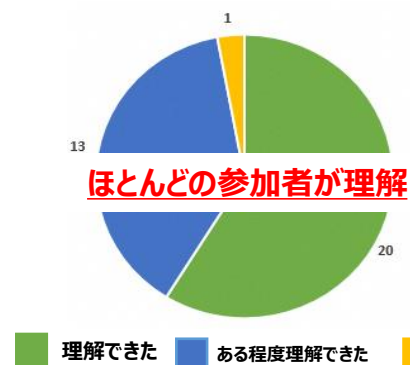


- ・聞いたことのない言葉でしたが、よく理解できました。処方薬は薬だけではないことがわかりました。
- ・ポヤーツとしていたものが少し明瞭になった。
- ・地域、専門職が一体となって地域づくりを進める意識が高まった。
- ・つながりの必要性は改めて認識できました。具体的にどうすればという点はわかりません。
- ・養父市ネットワークで今後どう進めていく？おおまかな理解はできたがイメージにいたっていない。
- ・「社会的処方」という言葉がまだ自分の中に浸透していないが、理解は進んだ。
- ・まだまだわからないことがあるので勉強したい。

キーワード

**様々なつながり 顔の見える関係性
できることをやってみる**

「リンクワーカー」について理解できたと感じますか（2日目研修アンケートから）



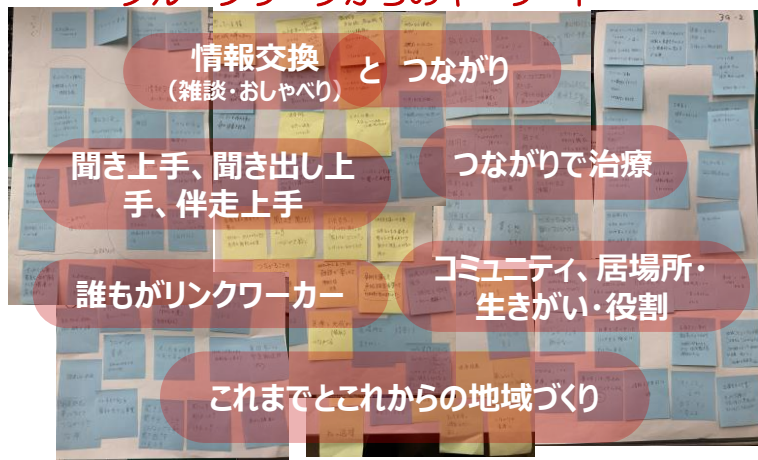
（事例検討：アンケートより抜粋）

- ・外部で見ている側でしたが、いろいろ参考になったし、楽しい時間でした。あるもので解決を目指すのではなく妄想を語り合えたらもっとよかった。
- ・ひとりの生活者としての思いを大切にしながら、悩みつつ一緒に考えていく過程を共有できたと思います。
- ・何かしらの方向性を作っていくものかと思ってましたが、いい意味で裏切られた内容でした。
- ・事例を通じて色々な視点を見ていくこと、妄想でもこんなこと、あんなことがあればいいな、と思いながら楽しく学ぶことができました。
- ・多職種で検討できてよかった。こういった場を今後も作れることが望ましい。
- ・色々な考え方が聞いて良かった。
- ・自分には思いつかない考え方や気づかされる事が多くあった。

キーワード

共有 多職種の視点 妄想

第1回～第3回のふり振り返り グループワークからのキーワード



「リンクワーカー」という言葉が多くの専門職をつなげた



（自由意見：3日目アンケートより抜粋） 様々な専門職が一堂に会したことが素晴しかった。有意義な研修だった。講師の皆さんがよかった。次年度以降も継続を。今後どんな形で動くのか、研修だけでなく、市としてどう動くのか気になる。企画や準備への労い多数。

リンクワーク機能の充実 リンクワーカー養成研修（連携役2層：コミュニティコネクター）

- 対象 民生委員など地域で福祉活動に活躍されている方々
- ねらい 社会的処方による課題解決の基本的な考え方と技術を学び、地域包括ケアや地域共生社会の実現に向けて、地域での福祉活動の実践に活かす
- 目標
 - ・社会的処方・リンクワーク機能に対する共通理解
 - ・つながりによる地域づくりの共有
 - ・コミュニティコネクターの役割を学ぶ

研修の内容

◇日時 令和5年3月1日（水）13:30～15:30

◇場所 兵庫県立但馬長寿の郷 郷ホール

◇内容 講話

「養父市の社会的処方
～つながりで誰もが健康になるまちづくり～」

講師 守本陽一医師

兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所 職員
（一般社団法人ケアと暮らしの編集社 代表理事）

講話・演習

「地域コミュニティ・社会資源の見つけ方・つなげ方」
ファシリテーター 佐伯亮太氏

（播磨町まちづくりアドバイザー/合同会社Roof共同代表）

令和4年度

令和4年度 保険者とかかりつけ医等との協働による加入者の予防健康づくり事業
養父市民生委員・児童委員合同研修会

リンクワーカー 養成研修



養父市では、全世代の方々が、地域や人とのつながりで、体も心も健康に生活することができる「孤立」しない社会の創造を目指しています。
今回の研修では、「社会的処方」の考え方を基に、ヒト・モノ・コトのつながりでまちを元気にする「リンクワーカー」について学び、「地域共生社会」、「これからの福祉や地域コミュニティ」について考えます。お気軽にご参加ください。

日時 **令和5年3月1日（水） / 13:30～15:30**

場所 **兵庫県立但馬長寿の郷 郷ホール**
（兵庫県養父市八鹿町国木 594-10）

講話講師 **守本 陽一氏**
よりもと よういち
医師・一般社団法人ケアと暮らしの編集社 代表理事
豊岡健康福祉事務所(豊岡保健所)企画課

演習ファシリテーター **佐伯 亮太氏**
あきまさ りょうた
合同会社 Roof 共同代表/播磨町まちづくりアドバイザー / NPO 法人シミズシズ理事

社会的処方プログラムの作成、地域コミュニティ等の見える化

養父市版社会的処方プログラムの作成

研修内での専門職による意見交換などを踏まえ、社会的処方やリンクワーカーの心得、役割、取組内容などをまとめた「養父市版社会的処方プログラム」を作成



地域コミュニティ・社会資源マップの作成

つなぎ先となる地域コミュニティや社会資源を整理し、分布状況を見える化

- 誰でも参加できそうな集い・通いの場を情報収集・分析整理
- 支援団体、ボランティア団体の情報整理



約600の情報を整理中

カテゴリ・地域ごとに一覧化、マッピング



※マップはイメージ

養父市版リンクワーカー・社会資源マップの紹介

令和3年度 養父市版リンクワーカーの紹介

No.	団体名	住所	連絡先
01	養父市シルバー人材センター	養父市	0120-2525-1111
02	養父市社会福祉協議会	養父市	0120-2525-1111
03	養父市障害者支援センター	養父市	0120-2525-1111
04	養父市高齢者学習センター	養父市	0120-2525-1111
05	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
06	養父市子育て支援センター	養父市	0120-2525-1111
07	養父市児童福祉センター	養父市	0120-2525-1111
08	養父市青少年センター	養父市	0120-2525-1111
09	養父市スポーツセンター	養父市	0120-2525-1111
10	養父市健康センター	養父市	0120-2525-1111
11	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
12	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
13	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
14	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
15	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
16	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
17	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
18	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
19	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111
20	養父市生涯学習センター	養父市	0120-2525-1111

農業 & 芸術文化の活用

農業

養父市シルバー人材センター農業会員による個別農業指導の仕組みを用意



指導内容：対象者のニーズに合わせた指導
(例：対象者が希望する野菜の作り方についての指導等)

芸術文化

施設や催しの場に足を運びたいくなる仕掛けづくりに向け検討を継続

- おおやアート村ビッグラボの活用に向け、地域おこし協力隊員を含め、関係者で協議



- やぶ市民交流広場のガーデニングボランティアなどの活用を協議



本モデル事業の取組を通じて見えてきたこと・今後の取組

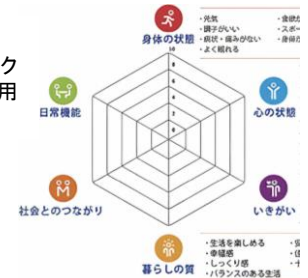
- ◇医療を起点とした社会生活面への相談支援のアプローチは効果的（患者の生活実態を踏まえた医療・ケア両面からの対応、医療・支援者双方の安心感、関わりの継続性）
- ◇事例への対応から社会的処方の方の3要素「本人中心性」「エンパワメント」「共創」を意識した伴走支援の重要性を再認識
- ◇つなぎ先となる地域コミュニティ、社会資源は？ 多様な住民主体の活動がキーとなる。あるものだけでなく、誰かを対象とした新たな活動を生み出すことが求められる
- ◇縦割りを超える案件、困難事例における庁内の相談支援体制は個々の裁量・調整に頼っていた
- ◇多職種・多機関の連携・情報共有の場がなかった

今後の取組 (予定)

市民ひとりひとりがリンカーワーカーに 医療・福祉×コミュニティ ～人と人、人と地域がつながる～

- ◆住民の健康面とあわせた社会生活面の課題を見つける取組（健康の社会的決定要因：SDHを踏まえたアプローチ）
 - ☞医療からの相談支援の依頼者へのアプローチ
 - ☞特定保健指導・糖尿病重症化予防対象者へのアプローチ
 - ☞糖尿病治療中断者へのアウトリーチ型アプローチ など
- ◆社会的処方の方の3要素「本人中心性」「エンパワメント」「共創」を意識した伴走支援
 - ☞ケースの積み上げ、好事例の収集による情報発信と共有（横展開へ）
- ◆受け皿となる住民主体の多様な地域コミュニティ活動の促進
 - ☞市民向けリンクワーカー（コミュニティコネクター）研修の実施、地域・市民活動の支援、自治協の機能強化、YBファブ、BIGLABOの活用 など
- ◆制度の狭間ニーズ、世帯の複合的課題に対応する相談支援体制と多職種（多機関）の連携
 - ☞庁内の相談支援体制の連携・整理、専門職リンクワーカー（ヘルスコネクター）研修の継続 など

ポジティブヘルス(クモの巣チャート)を参考に相談者とリンクワーカーでチェックし、コミュニケーションツールとしても活用できるアセスメントシートの作成を検討



社会的処方理念（本モデル事業）で目指すこと【最終目標】

- 医療、保健、福祉、介護、地域のより一層の好連携のしくみづくり
☞ **多職種（多機関）のネットワークの強化**
- 属性や世代を問わない相談・支援体制の構築に向けたステップ
☞ **狭間ニーズにも対応する庁内の相談支援体制の充実・強化**
- 地域が自ら課題解決を図る地域力の維持・向上に向けた基盤づくり
☞ **場や居場所機能の再確認と受け皿となる社会資源の発掘・開発**

◆今後ますます深刻になる課題へも対応

- ◇少子高齢化、人口減少、独居高齢者世帯増加、老老介護、ひきこもり、8050問題、生活困窮、虐待、ヤングケアラー等
- ◇医療・介護・福祉をはじめとするあらゆる分野の人材不足（支え手の減少）
- ◇複雑多様化する市民ニーズと社会情勢に対応できる支援者側のスキルアップ
- ◇地域のつながりが弱くなり支え合いの力が低下

**つながりで誰もが健康になるまちづくり
～社会的孤立ゼロの地域共生社会をめざして～**

第4次養父市地域福祉計画の推進
「みんなが つながり 支え合い いきいき暮らせるまちづくり」